

増田裕一 委員

では、重複のない範囲で、何点かお伺いしていきたいと思います。

地域防災計画に関しましてお尋ねしたいんですけども、震災救援所に関して若干お尋ねしたいと思います。

私も調査したんですけども、ちょっと古い資料なんですけど、区内の震災救援所となる区立小中学校がございますが、体育館に限りましてなんですけど、若干耐震性が脆弱な箇所が何か所かあるということで、本議会でも補正予算で、耐震診断ですとか設計ですとか、そういった予算が上がっておりますけれども、現状、耐震性が脆弱な学校施設に関してはどのような状況でしょうか。

建築課長

個々の施設、具体的な話については所管ということで確認していただければと思うんですけど、ざっと、現在耐震性等あるいは補強設計ができてない学校が9校ほどございまして、今回、補正予算でその補強設計あるいは耐震診断をやる。そのほかに、保育園、児童館、幼稚園等の、耐震診断を今回補正を組みまして、子どもたちの使う施設については今年度ですべて耐震診断を終えてしまう、そういうような考え方でやっております。

増田裕一 委員

先ごろの国会で地震防災対策特別措置法の改正が行われまして、区立ですとか公立の小中学校の施設に関して国庫補助が出るというような取り組みもあるようなんですけども、それで耐震の診断をしましたと。一方で、耐震補強の工事のほうに入っていきます。それは前倒しで行っていただけるのでしょうか。耐震改修促進計画のほうでも、平成27年までにやるということでしたが、今回の法律の改正で前倒しになっていくというような認識でよろしいのでしょうか。

建築課長

杉並区の耐震改修促進計画をつくりまして、全体的な公共施設、重要な公共施設については27年までに100%やっていくという中で、前倒しをするということで今回補正を組みまして、前倒して取り組んでいくというような考え方でございます。

今般、地震防災対策特別措置法で補助率がかなりアップしたというようなことも含めまして、さらに前倒しというか、検討がこれからされていくのではないかと考えてございます。

増田裕一 委員

引き続き、区民の生活の維持という視点から、これからいろいろと検討されていくかと思うんですけども、生活の維持にはやはり物資が必要でありまして、杉並区でもさまざま協定を結んでいると伺ってはおりますけれども、例えば区外からたくさん救援物資とか届いたりするわけですよね。そういった場合に、区としてはどのようにそういった物資に関してさばっていくか、そういった現状の認識があるかどうか。

防災課長

発災後、区外から、いわゆる地方から救援物資が来た場合の対策といたしましては、現在、永福体育館、高円寺体育館をいわゆる救援物資の集積所というふうに位置づけまして、そこに部隊を集結して荷さばきを行って、救援所のほうに配送するというような体制になってございます。

増田裕一 委員

東京で地震があるわけですし、53万人都市が被災するわけなので、永福体育館だけで足りるのかどうか。プラス、道路が寸断されますので、なるべく区外から入ってきやすい場所に、そういった貯蔵というか、一時の集積の場所を確保する必要はないかなというふうに考えるんですけど、いかがでしょう。

防災課長

そういったご指摘も踏まえまして、今年度、いろいろ区民生活の維持という議論の中で検討していきたいと考えてございます。

増田裕一 委員

時間もありませんので、済美公園に関して若干お尋ねしたいんですけども、この済美公園、デザイン的には非常に、私もできたら行ってみたいというような公園なんですけれども、これは激特事業の延長線上で行われるということなんです、これは実際問題、時間50ミリ 平成17年9月の大雨の場合は時間100ミリということだったんですけども、大雨が降ったときに増水した際に、この公園はどの程度まで、増水したときに、親水性を高めているので結構自由に入れるわけですよ。周りにさくはあるんですけども、入り口に関しては扉をつけて、大雨ですとか増水したときはなるべく子どもが近寄らないようにするべきだと考えるんですけども、いかがでしょうか。

建設課長

委員ご指摘のとおり、17年9月4日は時間100ミリ以上という本当に集中的な豪雨でございました。東京都の申しますには、この激特區間ですね、この激特事業を完了すれば、この区間に限っては、再度あのような豪雨があってもたえられる。たえられるといいますのは、河川からあふれることはないということは聞いてございます。

また、安全対策でございますけれども、すみません、説明が少し足りなかったかもしれませんが、全体、転落防止さく等を設置する予定でございます。河川の管理用通路と斜面の間にもさくを設置いたしまして、また、扉をつけていくということで、急な増水時の対策、例えばどういうときにどう閉めていくのか、そういったところはまた今後の検討課題でございますけれども、そういった対策は十分、まず必要な施設は設置いたしますし、それをどうやっていくかというのは今後検討していきたいというふうに思っております。